

許 可 番 号	倫-541
研 究 課 題 名	早産出生の小児における体格の推移についての後方視的検討
診 療 科	新生児科
研 究 責 任 者	寒竹 正人
資 料 ・ 情 報 の 管 理 責 任 者	有井 直人
研究の目的と方法	<p>早産もしくは胎児期の発育が悪く出生した児（子宮内発育不全：IUGR）で出生した児では、成人期の2型糖尿病や肥満になるリスクが高いことが注目されています。一方、正常の正期産児では、体格の指標である body mass index（BMI：体重 kg÷(身長 m)<sup>2</sup>）が生後9か月頃まで増加した後減少し、通常は6歳前後に再び上昇に転じます。この再上昇ポイントは adiposity rebound（AR）と呼ばれ、3歳以前にBMIが上昇に転じる早期のARは、将来の肥満発症に関する有用な予測因子とされています。しかし、在胎週数30週未満の早産児やIUGR児では小児期に肥満が多いというよりは、むしろ筋肉が細く運動機能が低い傾向があり、早産児の早期ARが肥満予測因子となるかについては不明です。そこで、身長と体重のバランスを評価しながらフォローアップすることが重要となります。そこで、在胎30週未満の早産児における生後3歳以前のBMI上昇など、BMIの推移を用いた体格フォローアップの意義について後方視的に検討する研究を計画しました。</p>
利用、又は提供する 試料・情報の項目	在胎週数、出生時・生後2か月・退院時/修正40週・修正1歳・1.5歳・3歳・6歳時の身体計測値（体重、身長、頭囲）
研 究 対 象 者	2005年1月から2011年12月の間に順天堂大学医学部附属静岡病院で出生し、NICU/GCU病棟に入院した在胎30週未満かつ6歳時まで当院外来でフォローアップを継続した早産児を対象とします。
研 究 対 象 期 間	西暦2005年1月から西暦2011年12月の間
利用する者の範囲	当院のみで実施
個人情報の取扱い に つ い て	<p>使用するデータは、個人情報特定されないよう匿名化に十分配慮して扱います。</p> <p>研究成果が公表される場合にも、患者さんが特定できるような情報が公表されることはありません。</p>

お問い合わせ先	<p>該当する研究の対象となる患者さん（のご家族）で、ご自身の情報を利用しないでほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。</p> <p>順天堂大学医学部附属静岡病院 新生児科 電話：055-948-3111(代表) 研究責任者：大川 夏紀</p>
---------	--